

大学院生の実践からのことばの学び

お茶の水女子大学大学院生 佐野 香織

近年、従来の教室学習者、インフォーマル・ノンフォーマルといった枠組み内では捉えきれない外国語学習者の多様なあり方が報告されている(久保田ら 2012, 瀬尾・山口 2012 等)。一人の学習者の中にも様々な学びがあり、ひとつの学習概念や教室内外というような二項対立的な概念では捉えきれない難しさも指摘されている (Kramsch 2009)。これらの学習者の学びをどのように捉えていけばよいのか、考えていく必要があるといえる。

本発表では、JFL 環境で学ぶ大学院生を対象としたの実践事例を取り上げながら、ひとつの見方として日本語からことばの学びを見るのではなく、学習者の「実践」からことばの学びを見ることを提示する。そして、「越境」という概念を手掛かりに、境界横断理論 (Engestrolm et.al 1995, エンゲストローム・山住 2008)、越境学習論 (荒木 2007 等) を取り上げ、「実践からのことばの学び」を考える理論的基盤の一つを検討することを目的とする。